

研究主題「一人一人を大切にし、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

学校名 羽生市立手子林小学校

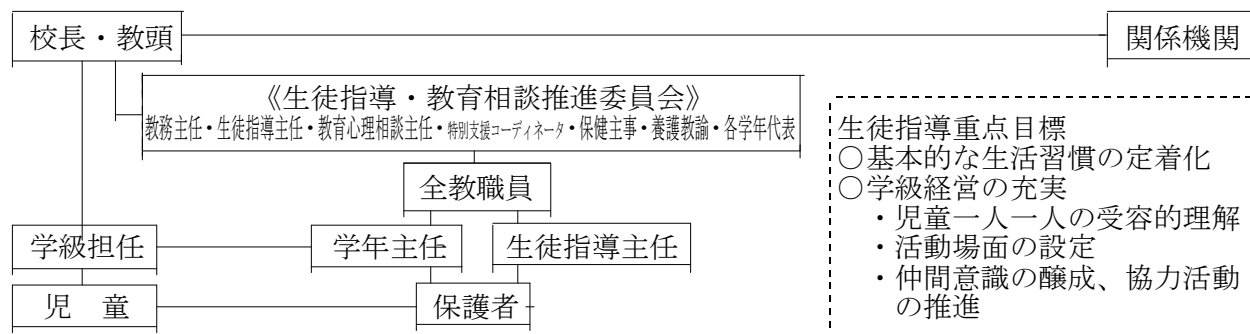
1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小・中連携（小中一貫）を含めて具体的にどのような取組をしているか。

1 はじめに

本校は、児童数396名、学級数14の中規模校である。児童は、休み時間に外で元気に遊ぶ姿も多く見られる。今年度は校門前では多くの児童が大きな声であいさつができるようになった一方で、自分の意見や考えが自信をもって言えなかったり、単語だけで会話をすませしてしまうなど、自分の思いがうまく伝えられない児童が見られる。感情のコントロールがうまくできなかったり、友だちとすぐトラブルを起こしてしまうなど、コミュニケーション能力が不足していると思われる児童も見られる。学区内に新興住宅街があり、家庭環境が複雑な家庭もあり、保護者の価値観が多様化している。

2 生徒指導体制の確立

本校の生徒指導重点目標に基づき、児童一人一人が楽しく生き生きとした学校生活を送れるように、児童の生活の諸問題や指導、及び対応の仕方について情報交換し、全職員が一貫した指導ができるようにしている。



3 本校の課題

現在大きな問題はないが、意欲が薄く、投げやりな児童や自分の思い通りにならないと騒ぎ出す児童への指導についての悩みが話題になることが多い。

また、友だちとすぐトラブルになったり、友だちとの上手な接し方が分からなかったりなど、社会性が十分育っておらず、発達障害の傾向があると思われる児童への対応も難しくなっている。

そこで、望ましい人間関係づくりのために、コミュニケーション能力の育成や自尊感情を高めて楽しく生き生きとした学校生活を送れるように、積極的な生徒指導の推進が大切だと考える。

4 具体的な取組

①毎月、生徒指導・教育相談推進委員会を行い、児童の生活の諸問題の把握と対応の仕方について協議する。また、よりよい学校生活を送るための取組を考える。

②職員会議の終わりに各学級の児童の生活の様子について情報交換し、全職員の共通理解のもとで一貫した指導を行う。

③校内研修で生徒指導事例研修会を実施し、特に配慮を要する児童の把握と、指導の手立てや対応策についての検討や確認を行う。

④毎月、生活目標を設定し、全校朝会や学年集会、学級活動などで児童に呼びかける。また、月末に目標が達成できたかどうか自己評価し、各学級の達成度を確認し、「生活目標チェックカード」に達成度に応じたシールを貼る。

(達成度90%以上…金 60%以上…銀 60%未満…赤)



- ⑤毎朝校門で、職員、代表委員会、6年生、PTA役員によるさわやかあいさつ運動を実施し、適切なあいさつの仕方や人間関係作りを心がけている。また昇降口前に校長が立ち、登校班が一行に並び、あいさつ指導をする。
- ⑥「3つの達成目標」の具現化として、具体的な手立てや評価について検討している。「規律ある態度」に関しては、「くつをそろえる」「話を聞き、発表する」などを重点目標に定めている。また、学校の実態に基づき、「口を開かずにそうじをする」なども目標に定め、児童の意欲向上を図る。
- ⑦縦割り集団での遊びの時間を設定し、月1回「ふれあい仲良し」タイムとして、異学年間の交流を行い、6年生がリーダーとして活動する機会をつくる。また、1年生の給食や清掃の補助をすることで最高学年としての意識を高める。
- ⑧友だち関係についての質問と、うれしいことや困っていることの記述式の「なかよしアンケート」を各学期1回とり、児童一人一人の学級への所属感や自尊感情について調べる。
- ⑨教育相談日を設け、児童について保護者とのコミュニケーションを図り、共通理解のもと、支援にあたる。
- ⑩PTA組織との交流、学校評議委員会、安全パトロール（全家庭）、学校応援団、地域ボランティアなどの組織を通して、保護者や地域との情報交換を行い、指導の連携を図る。
- ⑪学校だより、学年だよりなどで生徒指導における学校の取組や生活習慣の大切さについて知らせるとともに、家庭の協力を得る。
- ⑫巡回相談と市の相談室との連携によって母親が相談室で相談し、児童への接し方が変わり、児童の問題行動も軽減した。
- ⑬児童が欠席した場合は、放課後などに必ず教員より家庭に連絡を入れて、児童の様子を把握すると共に、保護者との信頼関係を深める。
- ⑭学校警察連絡協議会や羽生市生徒指導委員会を通して、各学校の課題などについて意見交換し、児童・生徒の実態把握に努めている。
- ⑮本校の研究主題を『生徒指導の機能を活かした「わかる・できる授業」の研究』と設定し、授業の中で生徒指導を充実させるための3観点「自己存在感」「自己決定」「共感的人間関係」を育むことを目標に授業展開の工夫を行っている。（参考文献 文部科学省「生徒指導提要」）



平成25年度 生活がんばりカード

羽生市立手子林小学校

【高学年用】

年 級 番 名前	1	2	3	4	5
1 机やロッカーの中の整理整頓をする。					
2 自分からはっきりあいさつをする。					
3 学習の準備を整え、授業にのぞむ。					
4 机の周りや足元の整理をしっかりと行い、整えることができる。					
5 はをわすんで、そうじをする。					
6 かかとをそろえて、くつを入れる。					

先生の印

よくできたー◎ だいたいできたー◎ あまりできなかったー△ できなかったー△

「なかよしアンケート」 姓 名 前 ()

1 あなたは、学校で、友だちとなかよく遊んでいますか。 はい いいえ

2 あなたは、クラスの中になかよい友だちが何人いますか。 3人以上 2人 1人 0人

3 あなたは、友だちにいやなことをおしつけたことがありますか。 はい いいえ

4 こまっていることや先生に相談したいことがあったら、書いてください。 はい いいえ

このアンケートは、種のお返りには、ありません。先生だけがみますので、書いてください。

5 今後の取組

現在、不登校、長欠者は0である。しかし、一時的ではあるが、保護者に送られて登校したり、泣きながら登校したりする児童がいた。対応は保護者と連絡を取り合い、原因を考え、生活リズムの確立の大切さを訴えた。

昨今は、社会環境、家庭環境が複雑に変化しており、児童の問題行動、保護者の価値観も多様化している。生徒指導上の課題解決にあたっては、児童の問題の背景を見極め、早期に適切な対応をしていくことが大切である。さらに、意図的に関わり合う場を設定して、児童相互の関係に配慮していくことも重要である。それが一人一人を大切に、信頼関係を築くことにつながると考える。また、地域との連携を深めるため、学校応援団の協力を得ていきたい。そして、今後も不登校者0を継続できればと考える。